



力強い産業 人が輝く
活力満ちる安心・快適なまち

喜多方市総合計画 (2017～2026)

三ノ倉高原ひまわり畑

◀▶ きたかた活力推進プラン ▶▶



目中線記念自転車歩行者道しだれ桜並木

喜多方市総合計画

(2017～2026)

◀▶ きたかた活力推進プラン ▶▶



喜多方市の更なる躍進を目指して

喜多方市長 山口 信也

平成18年1月4日に1市2町2村が合併し新たな喜多方市となり、11年が経過しました。合併後、本市では、平成19年度から平成28年度までの10年間を計画期間とする総合計画を策定し、各地域の豊かな自然や地域資源を生かしながら、市民の一体感の醸成と均衡ある発展に取り組んでまいりました。この間、東日本大震災や原子力発電所事故による風評被害、平成25年の豪雨災害や度重なる豪雪への対応などの困難を市民と行政が一丸となって乗り越えてきています。

現在、本市を取り巻く社会経済環境は、人口減少、少子高齢化の急速な進行、安全・安心対策、地域主権改革の推進、東京電力福島第一原子力発電所事故の影響など大きく変化しており、これらの課題への対応が必要となっています。中でも、人口減少問題は、経済規模の縮小や地域社会の活力低下など、市民生活への多岐にわたる深刻な影響が懸念されることから、本市の最重要課題であると捉えています。

このような状況を踏まえ、この度、今後10年間の新しい本市発展の指針となります「喜多方市総合計画(2017～2026) きたかた活力推進プラン」を策定いたしました。本計画では、目指すべき将来の都市像を「力強い産業 人が輝く 活力満ちる安心・快適なまち」と定め、本市に活力を生み若者の定住につながる産業の振興をこれまで以上に力強く推し進めるとともに、本市の将来を担う人材の育成や、子どもからお年寄りまで安心・快適に生活できるまちづくりに取り組むものとしています。この都市像を実現し、10年先、さらにその先も豊かで元気な喜多方を市民の皆様とともに築き上げ、本市に住むだれもが「喜多方に生まれてよかった、住んで良かった」と思えるような、そして全国の方々に「喜多方に住みたい」と思ってもらえるような魅力あるまちづくりを進めてまいりたいと考えております。

結びに、本計画の策定にあたりまして、熱心にご審議いただいた喜多方市基本計画審議会委員の皆様をはじめ、貴重なご意見やご提言を賜りました多くの市民の皆様、心より感謝を申し上げます。

皆様の想いを胸に、この総合計画を着実に推進し、本市の更なる躍進を目指してまいります。



目 次

第1編 序 論

第1章 総合計画の策定にあたって	3
1 総合計画策定の趣旨	3
2 総合計画の位置づけ	4
3 計画の構成と期間	4
第2章 喜多方市の概況	5
1 地勢・歴史・気候・交通	5
2 主な産業の状況	6
3 人口動態	10
4 市民の意識・意向	12

第2編 基本構想

第1章 基本的課題と将来の都市像	18
1 時代の潮流から見た基本的課題	18
2 市民の意識・意向から見た基本的課題	22
3 将来の都市像	24
4 施策展開の基本的な考え方	25
第2章 施策の基本方向	26
施策体系	28

第3編 基本計画

大綱1 地域の特性を生かした力強い産業づくり	33
第1節 農林業	34
第2節 商業	38
第3節 工業	40
第4節 雇用・労働	44
第5節 観光	46
大綱2 地域を支え未来を拓く人づくり	51
第1節 学校教育	52

第2節	生涯学習	58
第3節	歴史・文化	62
第4節	男女共同参画	64
大綱3	安全・安心、思いやりのある、 人にやさしいまち・くらしづくり	67
第1節	子ども・子育て	68
第2節	保健・医療・介護・福祉	72
第3節	消防・防災	78
第4節	生活・安全	82
第5節	社会基盤	84
大綱4	自然との共生と元気なふるさとづくり	91
第1節	協働・地域コミュニティ・市民活動	92
第2節	移住・定住	96
第3節	連携・交流	98
第4節	生活環境・自然環境・景観	100
第5節	循環型社会	104
計画の実現に向けて		107
資料編		111

※実施計画＝別途策定

